

令和元年度 駒沢中学校関係者評価委員会 報告書

令和元年度駒沢中学校関係者評価委員会で実施した学校関係者評価の結果及び提言を、次のとおりご報告いたします。

【令和元年度学校関係者評価】

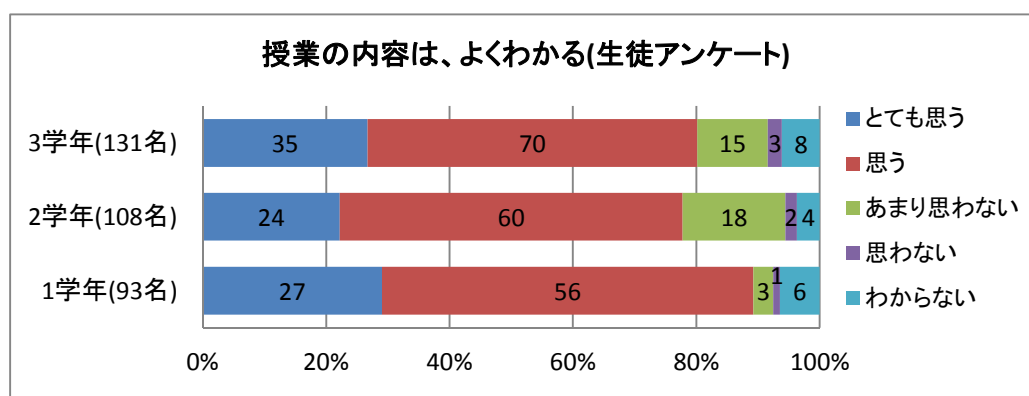
□ アンケート実施期間 令和元年10月8日～11月5日

□ 回収数

	生徒	保護者	地域の方
配布数(人)	348	334(家庭数)	58
回収数(人)	332	223	25
回収率	95.4%	66.7%	43.1%

1. 学習指導について

学習指導に関する項目では、生徒アンケート「授業の内容はよくわかる」の肯定的評価（とても思う、思う）が81.9%（昨年度81.6%）、「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫し、わかりやすい授業をしている」という肯定的評価も82.4%（昨年度82.0%）で、依然として高い数値を示している。特に「授業の内容はよくわかる」での1年生の肯定的評価89.2%という高い数値は、学習の基盤づくりの学年として特筆に値する。しかしながら、「授業の内容はよくわかる」の否定的評価（あまり思わない、思わない）も少数ながらも各学年数名の存在も見逃せない。きめ細かな指導の継続をお願いしたい。



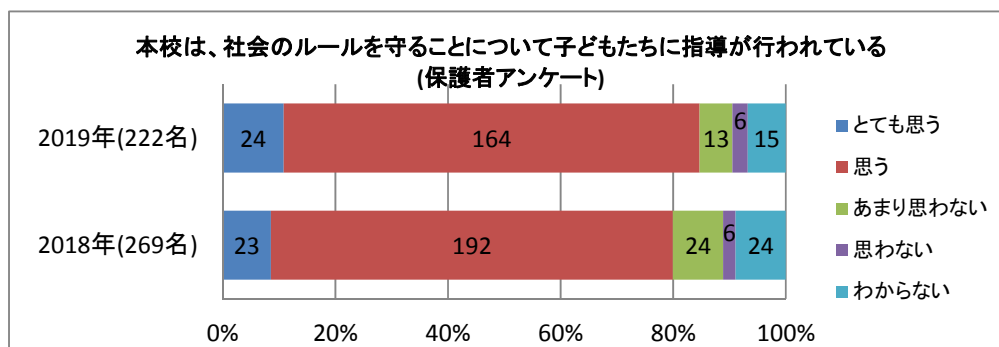
その他の評価項目では、「授業では、自分の良さを発揮するチャンスがある」（肯定的評価72.0%）、「テスト前には、学習計画表を利用して自主的、計画的に学習している」（肯定的評価71.2%）に関して、学校の重点目標達成のための数値目標70%以上を達成している。また、「ICTを活用した授業はわかりやすい」「NIE タイムを通して、社会の出来事に対しての関心が高まった」の肯定的評価がわずかずつではあるが、年度を経過する毎に高まっている。このことは、学校の「自ら学び考え、行動する人間性豊かな生徒の育成」という教育目標実現のためのたえまない努力の成果と考える。

「通知表の評価」については、「通知表の評価は納得できる」の生徒の肯定的評価は全体で75.2%（昨年度83.1%）、保護者の肯定的評価73.9%（昨年度76.6%）と残念ながら両者とも低くなっている。通知表の評価の意味するところ及び学習意欲と学力向上のために評価と評定をどのように活用すべきなのかについて、生徒指導並びに保護者への啓発を継続的に行っていただきたい。

2. 生活指導について

生徒アンケート「誰かが学校のきまりを守らないとき、先生は注意している」の肯定的評価 86.4% は昨年度同様に高い評価である。その反面、生徒アンケート「先生に指導されたことは、納得できる」は、1 年生の肯定的評価は 92.5% で高い評価だが、3 年生の肯定的評価は 71.8% でやや低い。3 年生は、高校受験の不安と心配で気持ちが不安定な時期であることを十分考慮し、生徒への生活指導を行っていただきたい。

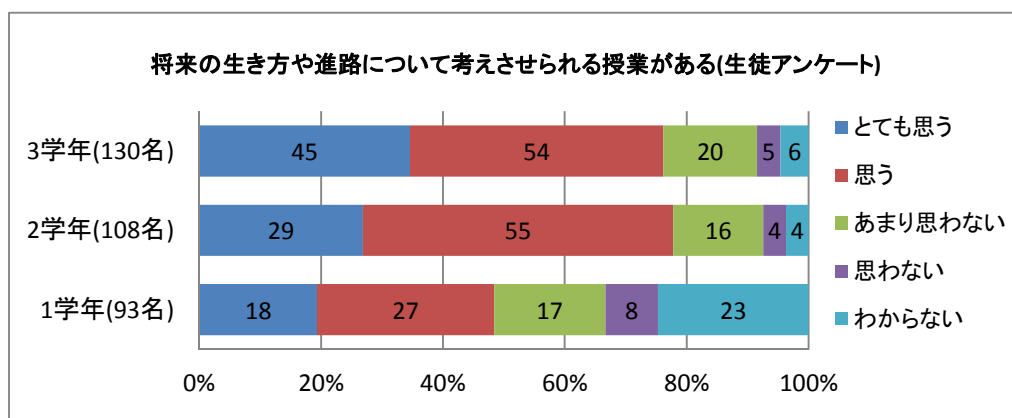
保護者アンケート「本校は、社会のルールを守ることについて指導が行われている」の肯定的評価 84.7% は、昨年度より 4.8 ポイント評価が上がった。地域アンケート「通学している子どもたちは、社会のルールを守っている」の肯定的評価 84.0% も高い評価である。このことから、先生方の生徒への生活指導の努力がうかがえる。これからも生徒とのよりよい信頼関係の継続をお願いしたい。



保護者アンケート「本校の教員には、子どものことの相談をしやすい」肯定的評価 64.6% は、昨年度同様の評価である。1 年生 65.7%、3 年生 62.5% は、低い評価である。そのため、先生方は、それぞれの学年の保護者がどのようなことでも気軽に相談できるように常に心がけていただき、さらに、相談しやすい雰囲気になることを期待したい。

3. 進路指導について

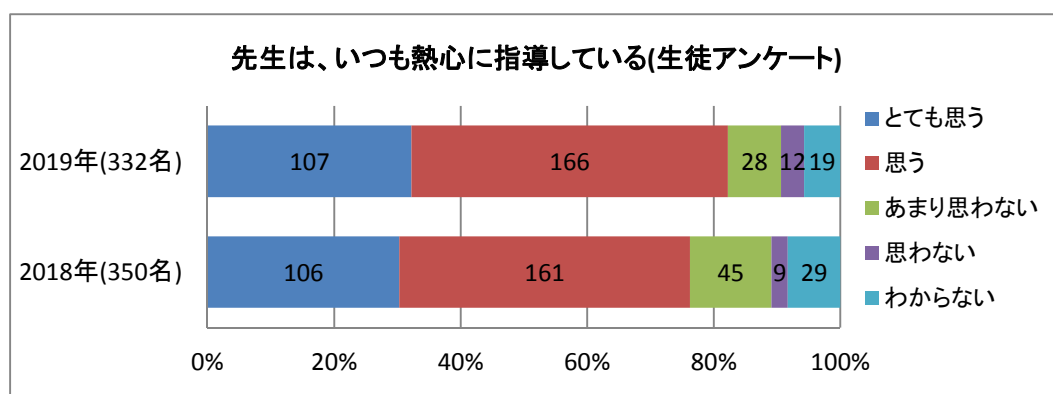
生徒アンケート「将来の生き方や進路について考えさせられる授業がある」の今年度の肯定的評価は、1 年生が 48.4% と半数を割り、昨年度(50.9%)をさらに下回っている。また、1 年生の肯定的評価は、「将来の生き方や進路について先生と相談する機会が十分にある」で 40.0%、「進路に関する情報が十分に提供されている」は 40.9% と低い。しかし、2 年生・3 年生では肯定的評価はそれぞれ 77.8%・76.2% で、特に 2 年生は昨年度とほぼ変わらず、毎年充実した授業が実施されていることを伺わせる。また、3 年生の「進路に関する情報が十分に提供されている」の肯定的評価も 85.5% と昨年度(86.6%)とほぼ変わらず高い。学年が上がるにつれ「進路」が身近なものになり、評価できるようになることが関係しているであろう。けれども、1 年生に関しては、進路指導(キャリア教育)に関する授業の実施時期と関係者評価アンケートの実施時期のずれが大きく影響していることは理解できるが、この結果に満足することはできない。授業だけに頼ることなく、平素よりキャリア教育を意識する取り組みがあってもよいと思われる。



保護者アンケート「本校は、子どもに将来の生き方や進路について考えさせる授業が充実している」の肯定的評価は 58.7%で、昨年度の 67.7%より 9 ポイント下がっている。保護者に進学指導にとどまらない進路指導の授業を理解してもらうことは容易ではないであろうが、さらなる努力が必要であるように思われる。ただ、1 年生・2 年生の保護者の「本校から、進路について十分な情報が提供されている」の肯定的評価は、昨年度 50%弱であったのが 55.2%・58.3%となり、全体でも 2.3 ポイント昨年度より上がっている。保護者の求める「十分な情報」がどのようなものかも問題になるが、進路についての情報発信の努力は認められていると考えられるので、来年度以降も継続していただきたい。

4. 教職員について

生徒アンケート「先生はいつも熱心に指導している」の肯定的評価は 82.7%と、昨年度の 76.3%より 6.4 ポイント高い評価となっている。「先生はよく私の話を聞いてくれる」の肯定的評価 75.6%も昨年度の 72.9%より 2.7 ポイント高い。また「先生は誰に対しても公平である」の肯定的評価も 62.6%と、昨年の 54.0%より 8.6 ポイント高く、全体的には改善されている。しかし、肯定的評価を学年別でみると 1 年生 69.9%、2 年生 69.4%に対し、3 年生は 51.9%で約 17 ポイント低く、なお一層の改善策に取り組んでいただきたい。



保護者アンケート「本校の教職員は、教育活動に熱心に取り組んでいる」に対して、本年度は 79.8%であり、昨年度の 78.1%より 1.7 ポイント上昇している。各学年にバラツキはあるものの、概ね八割方の支持を得ていることは、先生方の生徒に対する関わりが保護者に伝わっていると思われる。本校教職員は、社会人としてのマナーを身に付けている」に対して、本年度は 83.8%と高く、昨年度の 79.8%より 4 ポイント上がっている。本校の先生方のマナーに対する意識の高さが、保護者にも評価されたと思われる。今後も持続していただきたい。

5. 総括

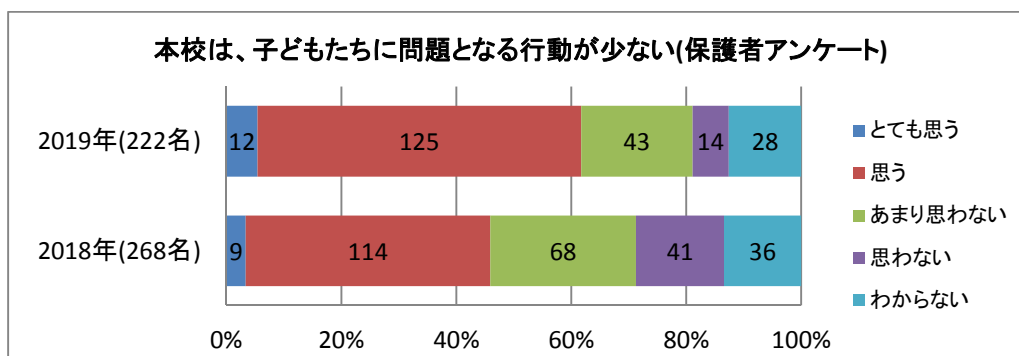
文部科学省によれば「学校評価」を実施するねらいとして 1.「教育の質の保証・向上」 2.「学校運営の改善」 3.「信頼される開かれた学校づくり」とされている。これらの趣旨を含んだ駒沢中学校が設定した目標と各学校共通の評価項目に対して、教員の「自己評価」と「外部評価」により達成状況をチェックするものである。

まず、教員の「自己評価」において、各項目の取り組みを肯定的に評価した結果を総合し平均にすると、Ⅰ.「今年度の重点目標の取り組み」が 97.0% Ⅱ.「地域とともに子どもを育てる」が 93.0% Ⅲ.「未来を担う子どもを育てる教育」が 93.3% Ⅳ.「信頼と誇りを持てる学校づくり」が 97.0% Ⅴ.「教育環境の整備」95.9%と目標を高く達成している。これは、学校長のリーダーシップと共に教職員が一丸となって努力を積み重ねてきたことのあらわれといえる。

次に「外部評価」であるが、生徒、保護者、地域に分かれて評価が行われた。

アンケート調査結果は、全項目の肯定的評価(わからないを除く)を総合し平均にすると、生徒アンケートの肯定的評価は 81.7%、30 項目の質問で 5 項目だけ昨年に比べて下げたが、下げ幅の平均は 3.6 ポイントである。残りの 23 項目は上がり、上げ幅の平均は 3.3 ポイントである。2 項目が昨年度同じであった。上げ幅の大きい項目は、『学び舎』の区立小学校との交流が活発である」10 ポイント、「生活の中で、進んで運動やスポーツをするよう心がけている」7.5 ポイント、「テスト前には、学習計画表を利用して自主的・計画的に学習している」7.3 ポイント、「自分の通学している中学校が好きである」7.2 ポイント、「毎日の学校生活が楽しい」6.4 ポイントなどである。下げ幅の大きい項目は、「通知表の評価は、納得できる」-8.1 ポイント、「将来の生き方や進路について考えさせられる授業がある」-6.4 ポイントなどである。昨年度に比べて全体的に評価を上げている。昨年、一部生徒の課題が報告されたが、先生方の適切な指導の下で学校教育の健全化が図られた。

保護者アンケートの肯定的評価は 77.8%、48 項目中 18 項目が昨年度より下がり、29 項目が上がっている。1 項目が変化なし。上げ幅の平均は 3.7 ポイントで、下げ幅の平均は-3.7 ポイントであった。上げ幅の大きい項目は、「本校は、子どもたちに問題となる行動が少ない」の 17.6 ポイントであった。下げ幅の大きい項目は、「通知表で評価されたことは、納得できる」-8.1 ポイント、「本校は、校内の環境や給食の衛生面の配慮がなされていない」-15.5 ポイントであった。これは、太子堂調理場が修理中であることの影響が大きい。



地域の肯定的評価は、91.8%で昨年度と変化がなく高い評価がされている。

学校外部評価制度が本格実施された平成 17 年度より、駒沢中学校の学校関係者評価委員として、生徒、保護者、地域からの評価の経年変化を観ているが、先生方の真摯な取り組みにより、高い評価で安定して維持されている。

一方、昨年も指摘したが、過重労働時間になりやすい先生方の状況を学校関係者も理解し、子供たちの教育環境をともに発展させていく協力が必要である。

6. 更なる改善の努力課題

- (1) キャリア教育・生き方教育を含めた進路指導のいっそうの充実を進めていただきたい。
- (2) 生徒の学習活動の改善につながる評価・評定のあり方を追求していただきたい。
- (3) 保護者及び地域の方々のアンケート回収率を上げ、「わからない」の回答を減らす努力をお願いしたい。